

私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたい、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題を一緒に考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。

「乱取りの相手」

このところ日ロ関係が急展開しはじめたようなニュースで大騒ぎになっています。北方領土問題が動き出すかのような記事は誰もが歴史が変わる一大事扱いで食いつくのでしょう。東西冷戦時代は互いに相手のことを必要としないプレーヤーだったこともあり、挨拶以上の関係にはなかったのです。

私の高校時代の好きな授業に体育の必修科目「柔道」がありました。柔道部出身の先生は体の大きい生徒を見つけては自分の乱取りの相手に指名して「巴投げ」をかけるのです。体格の良かった私がその役目を果たすのですが、他クラスの生徒は皆、巴投げを恐れて腰を引いて逃げまぐるので手ごたえに欠いていたのでしょう。

しかし生意気な私はいつも大技で応戦してやろうと先生の首の後ろの柔道着を掴み、手首のスナップを利かして襟を擦り上げます。私の左足裏が先生の右足半月板にピタリと着いたとき、襟を絞りに上げた右手に体重を乗せた瞬間、先生はフワッとよろけたのです。「先生に尻もちをつかせることが出来る!!!」と思えたのはほんの一瞬でした。

生徒に体勢を崩され、よほど悔しかったのでしょう。そこから私の体は木の葉のごとく宙を舞いました。受け身がこれほど痛くなく、畳に体がピシャリ、ピシャリと吸いつくように投げられたのははじめてでした。

ロシアのプーチン大統領は柔道の心得があることで有名です。それだけで親日的なはずもなく、73年間動かない領土問題解決に甘い期待を抱くのは幻想と知りつつも「乱取り相手はパートナーと認め合うもの同士が組み合うものです。」とこの国のトップに囁いて欲しいと思うのです。



当社では毎年、たくさん的高卒生を迎え入れております。一人でも多くの若い力を大切に育て上げたい。社会の発展に貢献できる人材に成長させることを私がお約束します。会社を通して彼らの人生形成の役に立ちたいと存じます。

ぜひ大切な生徒様の進路検討に私の会社を加えて下さい。本日は、御精読ありがとうございました。

松本 隆一郎